



十二月経

国和
花名



新春有沙慶福侯

之間云止詩事

志作行書其

趙平道軒
後佐々木
列藏書記



文正公集卷之四

林初日者冲素

事百回

美系涉修志

画石收作下

由可清

上恒建

心月台

少指事

印不取積

壽作抄本廿日

涉法合事公慈

和人教中

乃作曾不感

相接一合借

字志更如

及國如

入

於此作之也

收存以子為記

未去之記也

二月廿

何事也福亦抄

少名也亦抄

中ノノノノノ

心法ノノノノ

杖ノノノノ

又ノノノノ

又ノノノノ

心ノノノノ

沙

子

素成系冲見物

下作沙接发

沙和子

其以

子細く申すに

御方の成り

お梅の三味

存心御金

石田村の御

幸いなる

儀之可令

柳路始之

二月

以日有發競馬

沙見地王集車

之由流与自以記

或仁者身之细末

事以名之曰

清之者曰清

十

德者仁之枝叶下也

仁者心之存者也

仁者心之存者也

飛車一法も梶井

下少も或新端

後進或或人少

糖法も何れも

さしりも。初書

之書又度相連

法以異之

いかに

入給

か

子

お

下海... 母

... 母

及春... 母

... 母

... 母

... 母

入法名不心也

名不心也

同音今作也

二心也

六日也

名不心也

外、汗、此、周、勃

、肯、以、助、解、之、云

考、一、可、作、求、也

細、涼、解、而、度、矣、以

恩、懷、一、言、成、已、矣

教、化、一、言、成、已、矣

仕立 雨 浴衣 町 刺

飛 鳥 也 一 二

海

乃 刺 博 春

七 夕 相 方 証 証

幼 幼 也 早 終

同情
三
三
三

道
又
華
文
が
く

天
心
春
少
く
は
回
る

存
知
は
信
の
徳
意

物
之
系
三
和
け

乞
巧
真
以
花
心

北平
...
...
...

任
...
...
...

今
...
...
...

大

...

社
...
...
...

清
...
...
...

甲 沙 筆 記

乙 子 是 存 知 作

坂 呂 蒙 末 水 干

丙 結 凡 沙 叙 段

丁 力 誰 人 筆 記

戊 乃 下 筆 記 也

及沙州西一

下所存一

何毛

地

六

此子園

如長地事一作云

自留之讀書一

向廣正教注爰

鼻作行亦名物

仍也之云云也

白山神皇南世

雄略二年三月

四月廿七日

癸卯一日

丙午二月

丁未三月

戊申四月

中絶

九

河修法中

煙可程年

存念

何

用心學子一氣正

身之氣之氣正

但身地門正氣

相濟一事一氣不

一有西難氣正

了氣正沙正氣

心下寂靜の境

清し

十月廿三日

本月二十日書

しあはれ清し

むすね

新
お
も
る
の
時

ふ
お
ほ
め
の
時

梅
の
香
の
時

ふ
か
し
の
時

義
世
の
時

美
友
の
時

春仕進のさしづめ

志身入のさしづめ

神

二月

とる属漸がさしづめ

とる属漸がさしづめ

予の心を安んずる

はるかにありて

春は花の如く

華やかに咲き

散るは秋の如く

月夜に照らす

ふきやうとていふ

ふきやうとていふ

五月

柳

うらなうひにまゐる風

ふきやうとていふ

お城やまのいと

寫

けりまきおいらのまね

あさねあようくらひあまの

まねしり竹

二月

櫻

被まき

かきつる
道ゆく
まね
あまの
に
は
まき

今乃

三月藤

竹喜此

中
尔

うき

〜こまや

うき

あは

は乃

あ

友の

あ

難

守人
あ
読書
あ

あ

喜此

あ

うき

あ

此

雲雀

雲雀

うね

うね

雲雀

雲雀

うね

うね

うね

うね

うね

うね

四月卯花

白州春心

白州春心

白州春心

うね

静

静のよきよき

静のよきよき

静の花のよきよき

静のよきよき

六月 色揃

静のよきよき

静のよきよき

静のよきよき

静のよきよき

静のよきよき

水雞

人

標乃戸

あやめ

そら

此

あやめ

軒乃

暖

うら

赤

六月

大之此

赤い

は

之

か

煙草

序
星合
此
う
江

あひ
あ
に
ち
ち
ち
や

女
師
花

七月

鸚
首
え

介
の
末
花

川
よ
れ
由
宗

あ
の
う
た
の
こ
や

夕
丁
紀
川

八月 燕鳴草

秋を告ぐの鳥

ささや風

ささや風

あゝ虫の聲

鶺鴒

翼

は

は

林

の

鶺鴒

の

は

は

は

は

は

は

五月

薄

花すゝね

まろく

帯は秋の

ゆき木乃

露がまを

浅き糸依

ら

物乃と

初乃がふに、秋の

まろく

此

す

海
 白
 霧
 自
 秋
 月
 残
 菊

十月

鶉

冬
 青
 門
 志
 う
 っ
 っ
 ん

人
 多
 少
 何
 也
 何
 也

十一月

枇杷

多し葉

冬はは

るしう

木葉のこ

るふ

よめ高

のこた

魚ぬ枝

乃

冊名

午後

鶴

町

多葉

夕

乃

田

白

う

乃

乾

山

依

系

果

實

子鳥

ちよりの鳥

よれは

池の東

此月

今

ヤ

あひ

う

社

ほ

十二月

平梅

色うほむらひ

吾れあはれ

水一のみさめ

ほふあ

あま

かろめする地乃あり

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

嘉辰合月款

毎極百歳子

秋樂未央

ふりての

やうに

まろ

あつた

し

あ川風集同

三月千里江

山崎一友

うけし歳をみ

はるまじあふむ

そよひのこ

たまりあを

倚松樹以摩

腰習風霜之

程犯也和菜

義而敬口期

氣味く克調

也

子ととくかむをふ

ととりのまらきん

趣りそりになま

をいりま

享和元年極月新刺
天保三年正月求板

書林

額田勝兵衛
同正三郎



久々山居
書

